

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

「ICT活用教育の普及啓発」のための講習会を実施！

全学FD「電子教材開発者向け講習会」「電子教材著作権講習会」開催報告



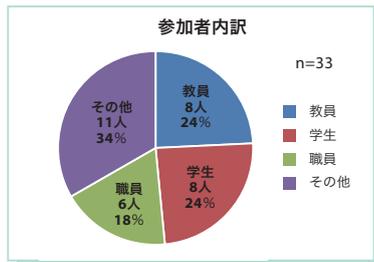
電子教材開発者向け講習会 開催報告



2018年12月25日13:30～15:00に伊都キャンパス中央図書館4階講習会スペースにおいて、教材開発センターの専任教員が講師となり、全学FD「電子教材開発者向け講習会」を開催しました。本講習会は、昨年度設置されました「教育改革推進本部」の「教育方法・教材開発部門」の活動の一環として実施したものです。本部門の目的は、ICTを活用した教育の推進です。本部門の実施部隊である教材開発センターの活動

を広く周知することにより、ICT活用教育の普及啓発を図るため本講習会を実施しました。

主な内容は、教材開発センターの主要な活動である「講義等ビデオ教材の撮影・編集・公開」と「3次元CG等高度ICT活用電子副教材の開発」です。岡田センター長から過年度も含めた教材開発センター全体のこれまでの活動について、大井京准教授から「MOOC(Massive Open Online Course)」の取り組みについて、芳賀瑛助教から講義等ビデオ教材の制作と活用状況について、石偉助教からWeb教材等の開発事例について、それぞれ報告がありました。



学内外から、合計33名(内訳は、教員8名、学生8名、職員6名、その他11名)の参加者がありました。

最後の質疑応答では、ビデオ教材制作や電子副教材開発に関して活発な議論が行われ、盛況の裡に終了することができました。今後も、教材開発センターでは、定期的に「電子教材開発者向け講習会」を開催する予定です。是非、次回の参加をご検討下さい。



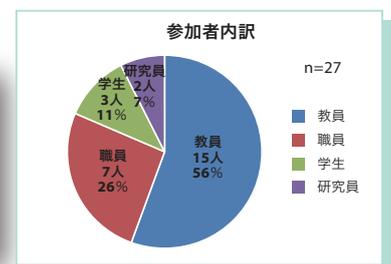
電子教材著作権講習会 開催報告



2018年12月25日10:30～12:00に伊都キャンパス中央図書館4階講習会スペース、17:30～19:00に馬出キャンパス総合研究棟1階104セミナー室において、教材開発センター長が講師となり、全学FD「電子教材著作権講習会」をそれぞれ開催しました。

本講習会も、昨年度設置されました「教育改革推進本部」の「教育方法・教材開発部門」の活動の一環として実施したものです。電子教材開発における他人の著作物の利用に関するガイドライン等を周知することにより、ICT活用教育の普及啓発を図るため本講習会を実施しました。今回は、『著作権法の一部を改正する法律』(2018年5月18日成立、25日公布)の内容も含め解説しました。学内から合計27名(内訳は、教員15名、職員7名、学生3名、研究員2名)の参加者があり、質疑応答では、法改正の内容に関して活発な議論が行われました。

今後も、教材開発センターでは、定期的に「電子教材著作権講習会」を開催する予定です。是非、次回の参加をご検討下さい。



電子教材著作権講習会 関連資料

http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/copyright_info

【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

2D/3D 教材開発システムの紹介 ～ vol.3～

vol.3 3D スキャナー



この装置は、現物資料の形状を光学的にスキャンしてデジタルデータとして保存することが出来ます。3D スキャナーの利用により、例えば、歴史的に価値のある「土器」等の形状をデジタルデータ化できます。一度デジタルデータ化できれば、研究での活用や、電子教材の素材として教育での活用ができます。歴史的価値のある現物を劣化させることなく、研究教育での活用が可能となります。形状のデジタルデータを3次元CG表現することにより、学生の興味を引きかつ教育効果の高い電子教材となり得ます。

また、3D プリンターを使用すればレプリカを作成することもできます。教材開発センターが強力にご支援いたしますので、貴重な現物資料をお持ちの先生におかれましては、是非、それら資料のデジタルデータ化をご検討下さい。 ※システム構成：3次元点群データ(STL, rgv, rvm)と3次元形状データ(ply, obj, dxf等)



▼教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。先生方の講義・研究資料の作成や講義の収録にお使いください。

【再掲】

※利用資格対象は九州大学に所属する専任の教職員になります

～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置
- ③ 3D スキャナー ④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ
- ⑥ 視線追尾装置 ⑦ 360度VRカメラ ⑧ 講義収録配信システム

文学部との連携による対話型電子副教材の開発 —3DCGアニメーションで学ぶ宮中儀式—



教材開発センターでは、平成28年度から人文科学研究院の坂上康俊教授と共に宮中の儀式除目(初日)を3次元CGアニメーションで再現する対話型電子教材の開発に取り組みました。「除目」は諸官を任命する儀式である宮中の年中行事です。学生がテキストの資料を読むだけでは理解しにくい部分を、3次元アニメーションで表現された建物や登場人物の振る舞いを見ることで、より深く理解できる効果を期待しています。この教材はWebGLという技術を利用したWebコンテンツとして開発を行い、任意のWebブラウザで閲覧し学習することができます。人物の振る舞いの定義は坂上先生と研究室のスタッフ・学生が担当しますが、3DモデルとCGアニメーションの作成は、教材開発センター教員とアルバイト学生が担当しました。今年度も引き続き、「除目」二日目の教材開発を進める予定です。

WebGL(ウェブジーエル)とは、Webブラウザ上で3DCGを表示できる仕様のひとつ。WebGLをサポートするWebブラウザであれば、本教材の閲覧が可能。



【石 偉助教】



Q-Conference 2018 参加報告

今年度で最後の開催となるQ-Links(九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク)の年次大会"Q-Conference 2018"が、2018年12月22日に九州大学で行われました。今年度も教材開発センターはポスターセッションに参加し、MOOCコンテンツの制作と開講報告、ICT活用電子教材の開発等、最新の取り組みを紹介しました。

大会テーマである『That'll be a challenge!～ 私たちは前に踏み出せるのか?～』のように、教材開発センターも教育の質の改善を目指すべく、最先端のICT技術を活用した学習効果の高いデジタル教材の提供や、新しい技術の導入を通じ、教育の質の向上に貢献できるセンターであり続けたいと改めて感じる有意義な大会参加となりました。

開催概要 ▶ <http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/Q-Conference2018>



【上野 敦子(テクニカルスタッフ)】